

25 生涯学習^{*1}長谷川 仁志^{*2}**1. 日本における医師の生涯学習（教育）の構造と役割**

これまでの歴史的な経緯から、日本における医師の生涯学習は、図1に示すように①『卒前教育からシームレスに医師免許の質である基本的な診療の実践力を保証する役割を担う日本医師会による生涯教育制度』等と、②『専門性の質保証を担う専門医機構による新専門医制度』の2つに分類¹⁾するとわかりやすく、今後の戦略が立てやすい。

これまでの日本の状況は、必修単位化された②の取得・更新がメインであり、プロフェッショナルオートノミーとしての①については、目標の設定、受講率など課題が多かった。近年、分野別評価時代の卒前教育改革体制と一貫した展開で次世代に向けて①の充実が図られてきている。本稿では、主に医師免許の質保証の時代としての①について述べる。

2. 卒前教育改革と一貫した展開で生涯学習を推進することにより各地区の医療を充実する

生涯学習改革が進みにくかった背景には、1) 専門医制度と関連した必修単位がないこと、2) eラーニングなどのデジタル教育の活用が不十分なこと、3) 各種シミュレーションセミナーなどのアクティブ・ラーニング企画が必ずしも十分に単位取得できるものとして申請されていないこと、4) 達成度の評価が不十分なことなどが挙げられる。さらには、5) 卒前教育の対象が初学者100名前後に対する6年間の教育改革で

あるのに比べて、生涯学習では、様々な卒前教育を受け、その後、各分野で進んできた幅広い年代の全ての医師に対する教育である点も挙げられる¹⁾。

そのような中、医学教育分野別評価²⁾の実施により各大学が医学科独自のPDCAを活用することにより、卒前教育において一定の医師免許の質保証を実現する方向性が確立してきたことは大きな転換のチャンスとなっている。新たな卒前教育で学んで医師となる次世代をターゲットにして生涯学習の改革を実現していくことが期待される。

これからの生涯学習では、組織やチームのパフォーマンスを向上する力（チームビルディング能力・ノンテクニカルスキル）と、それにつながる教育力の継続的な向上をより重視する必要がある。

卒前教育と生涯学習の比較と改革ポイントを表に示す。多くの部分が一貫してくるが、特に卒後で重要になってくるチームの力を継続的に引き出していくためのノンテクニカルスキルが医療界に圧倒的に不足してきた³⁾。近年のシミュレーション教育の流れで教育・研修が広がってきているが、現状ではまだまだ不十分な体制である。現場の継続的な医療の質向上のために個人の能力の向上だけではなく、人材を生かしてチーム医療、多職種連携を継続的に発展させる教育力、教育的配慮ができる能力、組織のパフォーマンスを向上するノンテクニカルスキル・チームビルディング能力育成が、これからの生涯学習では重要であり、卒前教育での導入に引き続き医学教育界がこれまで以上に強調していく必要がある。

^{*1} Continuing Medical Education

^{*2} Hitoshi Hasegawa 秋田大学大学院医学系研究科
医学教育学講座

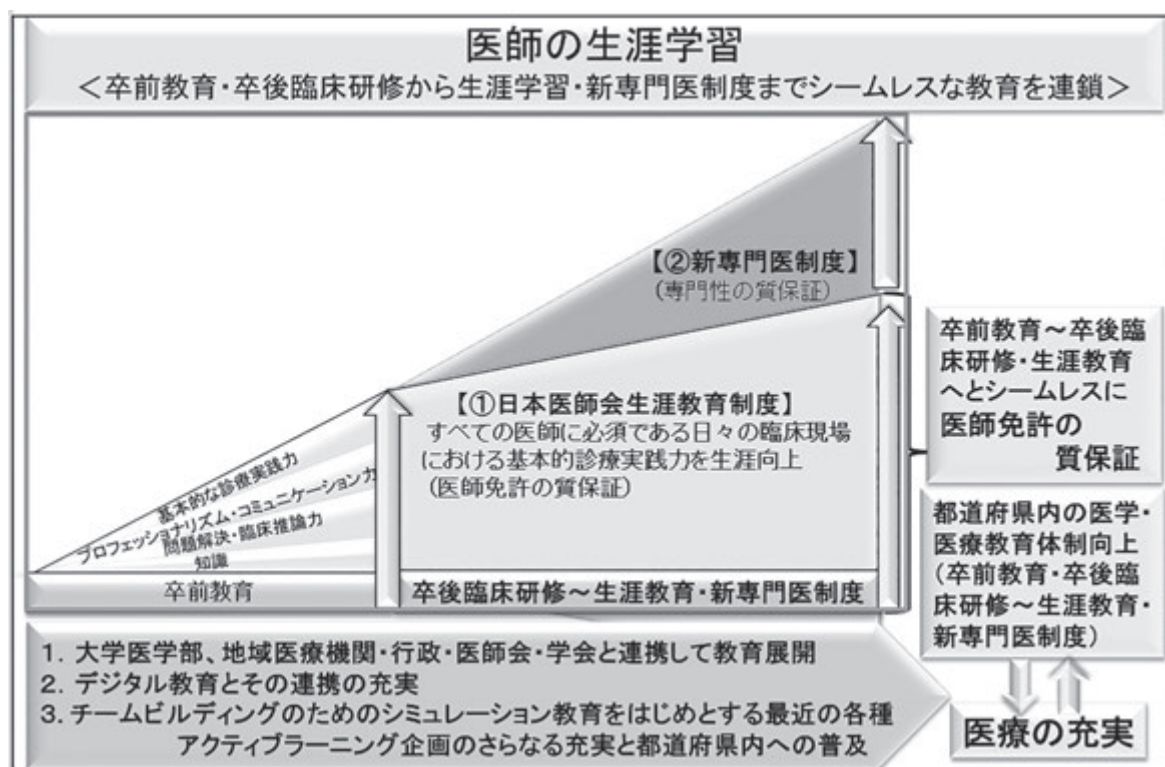


図1 医師の生涯学習 文献¹⁾より改変して引用

3. アクティブ・ラーニング企画充実とその単位申請を推進する

既に医師を対象としたアクティブ・ラーニングの企画として、シミュレーターを用いた二次心肺蘇生法（Advanced Cardiovascular Life Support：ACLS）、日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会（Japanese Medical Emergency Care Course：JMECC）、小児二次救命処置法（Pediatric Advanced Life Support：PALS）、外傷初期診療コース（Japan Advanced Trauma Evaluation and Care：JATEC）などが多数行われている⁴⁾。さらに、指導法の実践的な講習会として卒後臨床研修指導医講習会が、臨床現場における体験学習として症例検討会、各種多職種連携に関する研修会、医療連携に関するカンファレンス、地域包括ケアに関する検討会などが行われており、これまで以上にチームビルディングのためのノンテクニカルスキル教育を意識していく必要がある。

これら企画の生涯学習における単位申請に関

しては、現在でも主催者が都道府県医師会に申請して承認されれば、単位認定が可能であるが、十分に周知されていないため活用されていない場合も多かった。今後、将来に向けて生涯学習の目標を達成するために多彩な機会を設けることは重要であり、シミュレーション教育の各種アドバンスコースなどのアクティブ・ラーニング企画を大学や関連する医療施設のメンバー中心に各地区で充実させることが重要である⁴⁾。

4. 生涯学習と新専門医制度との連携強化の必要性

長年の課題であった生涯教育の受講率の向上を実現して医師免許の質を保証するためには、新専門医制度との連携強化が重要となる¹⁾。諸外国のように新専門医制度における各専門分野の専門医の申請や更新時には、生涯教育の目標単位をクリアしていることを条件とすれば、卒前教育から引き続き重要な医師免許の質保証の基盤の上に専門性が保証される理想的な展開となる。この場合、各専門分野のニーズによって

表 卒前教育と生涯学習の比較と改革ポイント

	卒前教育	生涯学習
対象	・ 初学者の学生（各学年100～120名前後） ・ 学ぶことが責務である	・ 20代以上のあらゆる年代（多数） ・ 受けてきた卒前教育と卒後の専門性が多様である ・ 多忙な日常診療をこなしながら学ぶ必要がある
目標	・ 医師免許の質保証 ・ プロフェッショナリズム、（利他主義、共感・思いやりの心、コミュニケーション力、倫理感を含む） ・ 主要症候や病態への臨床推論と初期対応、 ・ 生涯学習力・教育力	・ ①医師免許の質を生涯向上（卒前教育内容を継続的にさらに向上） ・ ②専門性の質保証：原則①の基盤の上に、内容は各分野による ・ 生涯学習力・教育力
アクティブ・ラーニングの活用	・ 症例ベースの統合教育 ・ PBL,TBL等の参加型の学修やシミュレーション教育の充実 ・ 講義、演習、評価へのデジタル活用による内容の充実 ・ 集大成としての診療参加型臨床実習 ・ いずれも対象が一定の人数なので比較的可能	・ 対象が多数なので、デジタル教育教材の圧倒的な活用による効果的効率的なアクティブ・ラーニングの展開 ・ 単位認定のための評価のデジタル化 ・ シミュレーション教育の充実
今後の展開	・ 分野別評価によりPDCAサイクルが機能しはじめ医師免許の質保証の向上へ ・ 大学・地域医療機関・行政・医師会・学会と連携して教育展開 ・ 教育改革には、学生、患者さん、社会のニーズや意見を反映する必要性が高い ・ チーム医療、多職種連携教育の充実により、卒後のノンテクニカルスキル・チームビルディング力の意義を理解する。	・ ①医師免許の質保証と②専門性の質保証を明確化して連携 ・ 卒前教育と一貫した改革：各分野横断的な知識、技術、態度に関する必須実践事項の保証 ・ 新専門医制度との各分野連携 ・ 大学、地域医療機関、行政、医師会と連携して教育展開（卒前教育、卒後臨床研修～新専門医制度、生涯学習体制が充実している地区は、医療向上につながる） ・ チーム医療、多職種連携を継続的に発展させる教育力、組織のパフォーマンスを向上する教育力、ノンテクニカルスキル・チームビルディング実践能力の育成をより強化する必要がある。

生涯教育の必要単位数や学習内容の項目であるカリキュラムコードが指定されることが現実的と考えられる。

5. COVID-19 対応で一気に進んだデジタル教育の活用が鍵となる

2018年度の日医生涯教育の単位取得状況⁵⁾は、年間の平均取得単位（13.33単位）のうち、講習会・学会などが全国平均11.50単位、体験学習0.85単位、日医雑誌の問題解答0.35単位、日医eラーニング0.58単位となっている。こ

のように、単位取得のほとんどが講演会・学会の出席点となっている点、eラーニングなどのデジタル活用がほとんど進んでいない点が課題と考えられてきた。今後、多忙な日本の医師が、一定のレベルの質保証という目標に向かって確実に生涯教育を進めるには、デジタル教育を圧倒的に充実し、症例ベースの各種シミュレーション教育とハイブリッドして展開していく必要がある¹⁾。

生涯学習におけるこれまでの課題とこれからについて述べてきた。今後、卒前教育から引

き続き医師免許の質保証としての目標に沿って、動画や音声駆使した各種 e ラーニング教材作成を推進すること、各学会・学術雑誌・講演会などによるオンライン情報の発信を推進し、確認テストなどオンラインでの評価を導入すること、日々の診療における情報検索学習を単位認定可能とすることなど、様々な戦略で進めることが期待される⁴⁾。

■文 献

- 1) 第 IX 次生涯教育推進委員会答申『卒前・卒後教育の一貫性から見た 日医生涯教育制度のあり方』 http://www.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20180620_4.pdf (最終閲覧日：2021.12.28)
- 2) 奈良信雄. 医学教育分野別評価の意義と展望, 医学教育 2017 ; 48 (6) : 405-10.
- 3) 吉本尚, 前野哲博. 地域医療の質向上におけるノンテクニカルスキルの重要性. 診断と治療 2019 ; 107 (6) : 686-8.
- 4) 第 X 次生涯教育推進委員会答申『新しい世代に主眼を置いた生涯教育制度の円滑な運用と環境整備』, https://www.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20200624_2.pdf (最終閲覧日：2021.12.28)
- 5) 平成 30 年度日本医師会生涯教育制度集計結果報告書. <https://kanagawa-med.or.jp/images/nichii2019syukei.pdf> (最終閲覧日：2021.12.28)